「ブラジルに日本の地名があるって本当？」



長浜市国際交流員
エバートン

皆さん、こんにちは。今年は長浜市が伊ヴェローナ市と姉妹都市提携を結んで20周年を迎え、市内では展示会などを行っています。

残念ながら、長浜市はブラジルの市町村と姉妹都市提携をしていないのですが、滋賀県はブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州と姉妹県州提携を結んでいます。滋賀県と同様に、国内最大の湖、パトス湖を有することが提携のきっかけとなりました。

ブラジルでは公園や橋などの建造物に名前を付けるのが一般的ですが、姉妹都市提携や日本人移民の影響で、多くのものに日本語の名前が付けられています。私が住んでいたソロカバ市にある「笠戸丸公園」の名はブラジルへの第１号移民船「笠戸丸」に由来します。また、となりにあるサンミゲルアルカンジョ市には福井県民が多く移住したため、「福井村」があります。

サンパウロ市は大阪市と姉妹都市提携を結んでいるため、市街中心部には「大阪橋」があり、地図上でも日本の地名をたくさん見つけることができます。また、道路には社会貢献した人物の名前をつけるのが一般的であり、日本人や日系人の名前の道がたくさんあります。ブラジル人にとって、日本語の発音は難しく、住所を覚えるのに一苦労しますが、移民の歴史に触れることができるのは喜ばしいことです。



▲笠戸丸公園は日本文化発信の拠点であり、最近、日本ポップカルチャーファンの若者の集いが毎週末行われています。

問市民協働推進課（☎６５－８７１１）

☆マメ知識：長浜市のもう一つの姉妹都市、独アウグスブルク市にちなんで、豊公園の自由広場（噴水付近）は「アウグスブルグ・プラッツ（広場）」と名付けられています。また、アウグスブルク市内には「ナガハマ・シュトラーセ（通り）」があります。

ヴェローナ市姉妹都市提携20周年記念事業

「絵本の中のイタリア」VIGGIO IN ITARIA



イタリアの絵本、約250冊を、街・歴史・美術・社会・学校・家族・食べ物など、12のテーマ別に展示します。

言葉が分からなくても、イタリアの創造性に富んだ絵本が楽しめる絶好の機会です。あなたのお気に入りを探してみませんか。

※日本語キャプション付きです。

閲覧や写真撮影は可能ですが、貸出しはできません。

【期　間】９月８日（土）～10月30日（火）
【ところ】長浜・浅井・びわ・高月の各図書館
※約250冊を４つに分け、４館を巡回します。

イタリア語教室

自己紹介や旅行会話など伊語の初歩を学びます。

【と　き】９月24日（月）～12月10日（月）の毎週月曜日（全12回）19時～20時30分
【ところ】長浜公民館（高田町）
【講　師】ファビオ　サルヴァーニョ氏（イタリア文化会館―大阪　イタリア語講師）
【受講料】21,000円（全12回分）
【教材費】実費負担（コピー代など）
【定　員】15人（申込み多数の場合抽選）
【申込み】９月３日（月）～18日（火）に氏名、住所、年齢、性別、電話番号を電話またはEメールで下記まで

Dear JAPAN～世界の絵本画家からの希望のメッセージ～

東日本大震災で被災した日本に向け、世界の絵本画家が贈ったイラストを展示します。
イラストは絵はがきにして販売し、売上金を義援金として東日本大震災の被災地へ送ります。
※販売は市民協働推進課で行います。

【場所・期間】長浜・浅井・びわ・高月の各図書館　９月８日（土）～10月30日（火）
虎姫いきがいセンター・湖北の各公民館　９月８日（土）～10月10日（水）



問申ヴェローナ市姉妹都市提携20周年記念事業実行委員会事務局〈市民協働推進課内〉
（☎６５－８７１１　Eメールkyoudou@city.nagahama.lg.jp）



▲葛籠尾崎遠景

シリーズ⑩
ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、438件※ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介します。

※平成24年６月１日現在

市指定文化財
葛籠尾崎湖底遺跡出土遺物

指定年月日　昭和62年11月３日
所在地　葛籠尾崎湖底遺跡資料館

滋賀県には約４６５０箇所の遺跡があります。その中で琵琶湖や内湖の湖底にある遺跡を湖底遺跡と呼んでいます。湖底遺跡の数は約80箇所ですが、そのほとんどがかつては陸上にあったものの、琵琶湖の水位の上昇や地盤沈下により水没したと考えられています。しかし、葛籠尾崎湖底遺跡はそれでは解明されない謎の遺跡です。

琵琶湖の北部、奥琵琶湖の地形は南湖と異なり山並みから湖に入る原始的な景観を見せています。葛籠尾崎は、琵琶湖に突き出している半島で、地形は特に険しく急な斜面は深い湖底にまで達しています。

葛籠尾崎湖底遺跡は、この葛籠尾崎の沖10～７００メートル、湖岸に添って北へ数キロの範囲、水深10～70メートルの湖底に位置しています。

大正13年末に湖北町尾上の漁師さんがイサザ漁で数個の縄文・弥生土器を引き上げたことからその存在が明らかとなりました。現在までに縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期、弥生時代中期・後期、古墳時代、奈良時代、平安時代の各期の土器等が引き上げられています。土器は完形品が多く、風化がほとんど見られず数千年、数百年の時を経てきたとは思えないほど原形を良く留めています。

また、一般的に遺跡から出土する土器は土の中に埋もれていますが、この葛籠尾崎湖底遺跡の土器は土中に埋没せず湖底に露出した状態で沈んでいます。これは、葛籠尾崎周辺に河川がなかったため土砂が堆積せず、土器等が沈んだ当時のままの状態で現在まで残ったと考えられます。長期間に渡り同じ位置にあったため、湖水に含まれる鉄分が表面に厚く付着（湖生鉄）した土器も見られます。この遺跡がどのようにして出来たかについては、湖岸の遺跡からの「遺物流出説」、神を祀るために土器を沈めた「祭祀説」、船が沈没・転覆したため積荷の土器が沈んだとする「船舶の沈没説」、葛籠尾崎の地滑りによる「遺跡の沈下説」等がありますが、残念ながら、どれも推定の域を出ていません。

遺物の中で最も古いものは、縄文時代早期で七千年ほど前の底の尖った砲弾の形をした尖底深鉢と呼ばれる土器です。（写真１）縄文時代中期の深鉢、後期の急須のような珍しい形をした注口土器（写真２）などがあり、形や文様から各地から文化が伝わったこと、縄文時代早期以来、琵琶湖との関わりを持ったことなどを示す貴重な資料です。



▲写真１



▲写真２

葛籠尾崎湖底遺跡出土遺物は、湖北町尾上にある葛籠尾崎湖底遺跡資料館で保管・展示されています。また、この遺跡の謎の解明に本格的に取り組まれた、湖北町尾上出身の考古学者で元京都教育大学学長の故小江慶雄氏の事蹟も紹介されています。

問文化財保護センター（☎６４－０３９５）

葛籠尾崎湖底遺跡資料館　■問合せ：湖北支所地域振興課（☎７８－１００１）
■入館料：２００円※中学生以下無料